

平成18年度

大阪市立大学大学院法学研究科法曹養成専攻入学者選抜試験

【2年短縮型】

法律科目試験問題：刑事法（配点：100点）

注意事項

- 1 問題冊子は、監督者が「解答始め」の指示をするまで開かないこと。
- 2 問題冊子は、全部で2ページである。
解答用紙は、全部で8ページである。
問題冊子、解答用紙に脱落のあった場合には申し出ること。
- 3 解答用紙の上部所定欄に、1ページには氏名、受験番号、試験の科目名を、2ページ以降は各ページに氏名を忘れずに記入すること。
- 4 解答は、第1問は1ページから、第2問は5ページから記入すること。
- 5 解答以外のことを書いたときは無効とすることがある。
- 6 机上に各自の「受験票」と「大学入試センター法科大学院適性試験受験票」を出しておくこと。
- 7 解答用紙は、8ページを超えて使用することはできない。

第1問 (刑法)

甲は、乙を殺そうと思いつき、乙を人気のない場所に誘ったうえ、麻縄で力いっぱい乙の首を絞めた。乙が動かなくなったため、甲は同人が死亡したものと思い、犯行の発覚をふせぐ目的で、乗用車で乙を200キロメートルはなれた海岸砂上まで運んでいった。海岸に着いた甲は、乙を車から出し砂上に放置したが、その際、同人のズボンのポケットから財布が地面に落ちたのに気づいた。甲は、死人に金は不要だ、俺がもらっておくとつぶやき、現金5万円のはいったその財布を自分の上着のポケットにいれ、車に乗り込み自宅に戻った。だが、実は、乙は、砂上に放置される時点ではなお生存しており、その1時間後に砂末吸引により窒息死した。

甲の罪責を論じなさい。

(配点：60点)

(刑事法)

第2問 (刑事訴訟法)

警察の取調べに違法があったが、引き続いて行われた検察官の取調べは適法になされたという事案で、この検察官面前での自白の証拠能力の有無について、虚偽排除説と人権擁護説の立場から論じなさい。なお、違法排除説について言及する必要はない。

(配点：40点)